

平成 24 年 5 月 31 日

一般社団法人石巻災害復興支援協議会の設立経緯について

一般社団法人石巻災害復興支援協議会

当協議会の設立時の経緯につきまして、新体制の開始に伴い、改めて説明いたします。

1. 元会長伊藤秀樹が NPO/NGO 連絡会(石巻災害復興支援協議会の前身)の議長となった経緯

- ・ 3 月 17 日、伊藤秀樹氏が災害ボランティアセンターに登録。個人ボランティアとして活動開始。
- ・ 3 月 20 日、鶴岡元気村ら災害ボランティア経験者の呼び掛けにより、石巻市災害ボランティアセンターの事務所を会場として「NPO/NGO 連絡会」が発足し、第 1 回連絡会は鶴岡元気村。議事録上の参加団体は、ガイドステーションわか、德音寺、キャンパー、四万十塾、つよし流自然農、日本財団、ピースボート、ヒューマンシールド神戸、メイクザヘブン、鶴岡元気村の 10 団体だが、社会福祉協議会も参加。(週刊誌ではピースボート共同代表の呼びかけで「NPO/NGO 連絡会」ができたとされているが、同氏は現地不在であった。)
- ・ 3 月 22 日、鶴岡元気村に代わりピースボートが議長を引き継ぎ。伊藤秀樹氏は書記。
- ・ 3 月 24 日、石巻市民であり書記を担当していた伊藤秀樹氏が、ピースボートから議長引き継ぎの依頼を受け、連絡会の議長となった。
以降、伊藤秀樹氏が議長として連絡会事務局を運営する中心的な役割を担うことになった。

2. 一般社団法人石巻災害復興支援協議会の設立経緯

- ・ 「NPO/NGO 連絡会」は 3 月 20 日に開始されたが、より積極的に復興支援に関わる組織として、伊藤秀樹氏の発案により 4 月 2 日に「石巻災害復興支援協議会」と改称。
- ・ 事務局業務（炊出し調整、登録団体受付、議事録整備など）を県外ボランティアに頼っていたため継続性が心配された他、ボランティア団体や NPO、災害従事車両の申請を受けた県外地方自治体などから、組織の位置づけや信頼性について問い合わせが多くなってきたことを受け、任意団体ではなく、より信頼の得られる組織として継続的に復興支援に関わるため、4 月下旬より、事務局機能の法人化について検討を開始。
- ・ 中間支援組織としての信頼性をいち早く確立する必要があったが、NPO 法人格の取得には数ヶ月を要することを鑑み、目前の支援活動を優先しつつ法人化を進めるため、登記手続きが迅速な法人格として一般社団法人を選択し、全体会議事録作成や団体登録の事務局機能を常勤で担っていた 4 名を中心に、法人化手続きを進めた。
- ・ 非常勤理事として、4 月まで業務に関わっていた 1 名の就任承諾を得た他、非常勤の監事 1 名を加えて、理事 3 名、監事 1 名とし、役員を含む社員 6 名の体制で 5 月 13 日に非営利型の一般社団法人として登記を行った。なお、団体の公共性を鑑み、設立時より会計監査人を 1 名置いた。
- ・ 設立当初より、専務理事が会計責任者として現金および通帳の管理を行った。
- ・ 一般社団法人の登記により、法人として責任を負って業務を行う体制を立ち上げた。